

## カナダ金融政策（2023年1月）

0.25%ポイントの利上げを決定し、利上げ停止を示唆

2023年1月26日

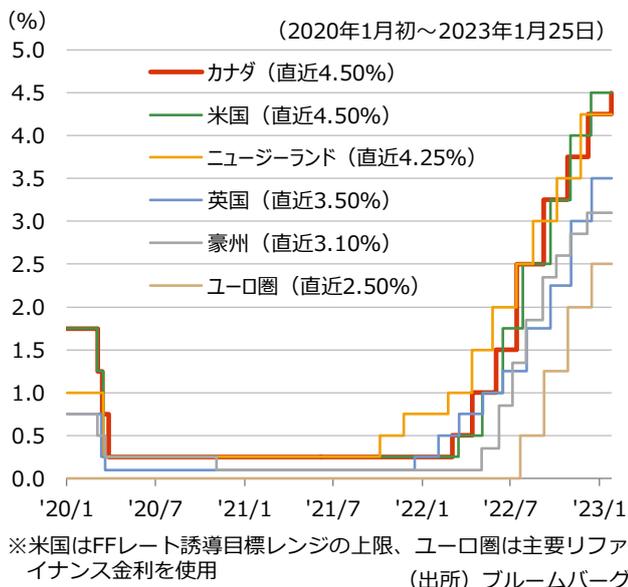
### インフレ抑制に向けた「明確な証拠」と「深まる自信」

カナダ銀行（中央銀行）は1月25日（現地、以下同様）に金融政策決定会合を開催し、政策金利を4.25%から4.50%に引き上げることを決定した一方、利上げを停止することも示唆しました。

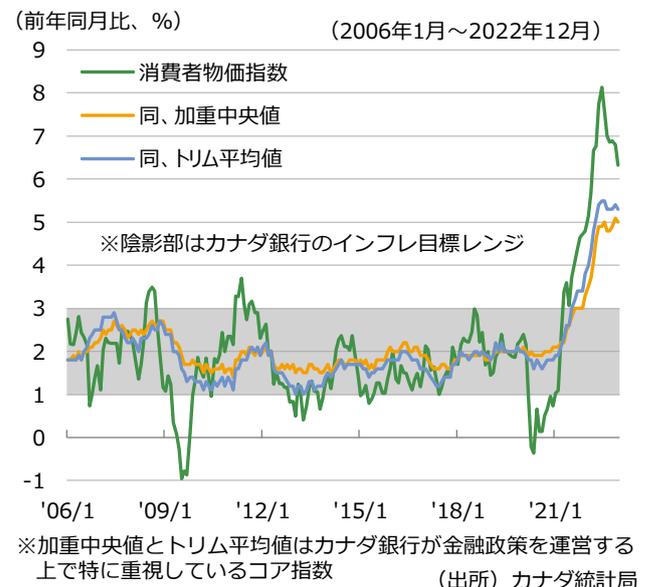
前回（昨年12月7日）会合の声明文では、今後の方針を「政策金利を更に引き上げる必要があるかどうかを検討する」としていましたが、今回の声明文では「最近の経済活動は従前の想定より強く」、「持続的な需要超過の状態が多く、物価に上昇圧力をかけ続けている」と利上げ決定に至った背景を説明しています。しかし同時に、「経済情勢が概ね見通しに沿って推移した場合、これまでの累積利上げの効果を見極めつつ、政策金利を現在の水準で維持することを想定している」と利上げ停止を示唆しました。

マクレム総裁は会見で「インフレ見通しの上振れリスクが顕在化すれば、更に利上げする用意がある」と、利上げ停止はあくまで「条件付き」であることを強調しました。一方、これまでの利上げが個人消費の減速などにつながっており、時間差で経済全体に波及するとの認識で、「インフレが鈍化する明確な証拠を見ている」、「インフレが沈静化するとの自信を深めた」とも発言しました。市場は利上げ再開よりも利下げ転換に比重を置いています。マクレム総裁は「利下げについて話すのは早すぎる」と述べましたが、足元5%前後で推移している加重中央値やトリム平均値といったコア消費者物価指数の前年同月比が、カナダ銀行の想定通り今後数カ月で鈍化すれば、将来的な利下げ転換の思惑は一段と強まりそうです。

#### 各国・地域の政策金利



#### カナダの消費者物価指数



#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。